

○事業所名	児童デイサービス アニマトさのほりごめ		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 14日		～ 令和7年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 14日		～ 令和7年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	思春期の大切な時期を共通の立場である仲間とお互いに共感し心を通じ合わせることで次のステージに向かう力を育てていけるよう、様々な集団活動を取り入れている。	活動の担当者が中心となり、職員全員で毎月活動会議を行っていくことで活動プログラムのブラッシュアップが図れるようにしている。また、5領域の視点と4つの基本活動を取り入れた総合的な支援が行われるよう、週毎に集団活動のテーマやねらいを定めている。	活動予定表に、活動のねらいや目的をより分かりやすく記載していきたい。 過去のプログラムを資料化していくことで、活動の担当が変わっても参考にしながら常に質の向上が図れるようにしていきたい。
2	同じ建物内にある事業所(低学年の児童がご利用)と、行事を合同で行い、交流を持つ機会を作っている。	高学年の児童・生徒には、係の仕事を受け持ってもらうことで上級生としての意識を高められるようにしている。 地域ボランティアをお招きし、人形劇やマジックショー等開催していただいた。	新しい体験ができるよう、イベントの内容を工夫したり、地域ボランティアの方々との交流を広げていけるとよい。
3	おやつ時は100円分の菓子等を自分で選んだり、「中高生会議」等を通してやってみたい活動の提案を行っていくことで、自己選択や自己決定の機会を構築している。	「中高生会議」では、司会、書記等、会議中での役割を持ちたり、やってみたい活動の提案を行っていくことで、より主体的に活動に参加できるようにしている。 自己選択においては、言語だけでなく、非言語のコミュニケーションにも注視し「伝わる」経験を重ねられるようにしている。	「中高生会議」は今のところ月一回の開催なので、頻度を増やし、個々の意見をより尊重していけるとよい。 毎回同じ物を選んだり選択が固定しないように、菓子のバリエーションを工夫していけるとよい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時等の対応についてに周知が不十分であること。	事業所としての事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等は策定されているが、保護者様への説明用としての文書がしっかりと整備されていなかったこと。	保護者様にご理解いただけるようなお知らせを整備していくこと。発生を想定した訓練等を行った際には、写真などで分かりやすく、その旨をお知らせできるようにすること。
2	障害がない子どもとの交流や、保護者同士の連携の支援が不十分である。	昨年までは、法人内の事業所合同での保護者会開催だった為、個々の相談や事業所内での保護者様の連携の支援には至らなかったこと。	保護者会の趣旨をお伝えし、ご理解をいただくことで定期的な開催を行っていくことが必要。また、普段から保護者様の悩み、ニーズを把握しておくことで、より有意義な会が開催されるようにしていく。
3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が不十分であること。	必要に応じて危険のないよう職員が介助にあたっているが、障がい種別により個々の対応が必要であること。	トイレや手洗い場の手すりの設置を検討していく。 可能な限り障害物を減らし、歩行や移動においてより安全な空間にしていく。